

# 自己点検・自己評価 総評(令和2年度)

## にわさかこども園

### 保育教諭等

#### 1. 保育計画

・理念を念頭に入れ保育に取り組むことができていた。その中で園児が楽しさを感じながら生活習慣が身についていくように一人一人に丁寧な保育を心掛け、無理のないように留意した。

また、コロナ禍において活動が難しい場面等もあったが、その都度何ができるか考え取り組んでいく良い機会になった。

地域とのつながり等、機会が持てなかったが、今できることを再考し園児の経験の幅を広げられるよう努めていきたい。

・新人指導計画を取り入れ新人指導等取り組めた

#### 2. 保育のありかた

・コロナ禍において、健康状態の把握、体調管理、消毒作業等を通して安心安全な保育環境を整えることに留意した。感染症の蔓延もなく過ごすことができた。また、各家庭とコミュニケーションが例年より不足していく中、各家庭の状況把握に努め、子ども一人一人に寄り添い丁寧な言葉かけを心掛けた。

食育活動への配慮工夫難しさは感じた。

・乳児にはセンサーマットを導入し午睡のチェック体制の拡充、確立を図った。

#### 3. 保育者としての資質能力

・「10の姿」、「三つの視点」、への意識は高まってきている傾向にあるが、中身の理解には繋がっておらず理解不足が感じられる。保育の質の向上のために保育の中での意識づけや、職員自身の学びの場をより多く設け、教育・保育の質の向上にむけ努力していきたい。

#### 4. 保護者対応

・コロナ禍で不安感も多い中、保護者の気持ちと子どもの安全両方を考えその時々で最善の対応を心掛けた。その中でコミュニケーションの工夫、情報の共有を図り、相談事には時間を設けて表情を見ながらの対応を心掛けるなど対応の仕方を工夫したが、こういった状況下ではうまく伝わらない場面も多かった為今後も対応の仕方を検討していく人用があるように感じる

#### 5. 安全

・プールの監視体制の徹底や午睡チェック体制の徹底を図った。避難訓練においても密にならないように工夫しながらも訓練を実施するとともに、職員間でも避難経路の再確認など徹底し取り組んできた。

遊びの中で危険な場面が見受けられることもあり、遊び方の指導や危険箇所の確認の繰り返しが必要と感じることもあった。ヒヤリハットによる情報の共有数は増えてきたが、より安全対策の徹底を図っていく。

#### 給食担当

・給食室内での協力はもちろん、食育体験はもとより様々な課題に取り組み、職員とも連携できるように努めていた。また、離乳食やアレルギー食の対応等も行った。喫食状況の把握においては頻度が少ない時期もあったので、継続的に喫食状況の把握ができる工夫をしていきたい。

##### 1. 調理について

・給食提供に関する法令等を遵守し、安全で美味しく年齢に応じた食事提供できるように努めてきた。また、誤食が起きないように注意を払ったが、一度誤食を起こしてしまった経緯があり、しっかりと目で確認できるようにチェック体制の強化と各クラスとの連携を再確認し改善をした。

##### 2. 衛生管理について

・衛生管理には十分注意を払い、手指消毒や調理器具の殺菌消毒等徹底した。

##### 3. 記録について

・食の安全のためにも各種記録には責任をもち徹底している。また、職員間でしっかりと役割分担し業務内での記入を徹底した。